



市民一人ひとりの健康で充実した生活を目指して

市長 宮澤宗弘

市では、重点施策の一つとして「健康長寿のまちづくり」を掲げてきました。その取り組みの一つとして、今回、県下の市町村では初となる「歯科口腔保健条例」を制定しました。

この条例では、市民一人ひとりの健康長寿に向け、歯と口の健康に関心を持っていただくとともに、市民や行政、関係機関が協力して歯と口の健康づくりを推進していくことを定めています。

歯や口の健康は、楽しく食べたり話したりするためだけでなく、最近では、全身の健康に深く関わっていることが分かってきています。

市では、乳幼児から高齢者まで、市民一人ひとりがいつまでも生き生きとした生活を送ることができるよう、健康づくり事業を展開しています。

健康長寿のまちづくりの実現を目指し、この条例制定を機に、歯科医師会など関係する皆様のご協力をいただきながら、市民の皆さんと、より一層の歯科保健事業の推進を図ってまいります。

条例化により歯と口腔の健康に市全体で取り組む
市では「市健康づくり計画」に歯・口腔の健康について目標を掲げ取り組んでいます。歯と口腔の健康づくりの重要性を再認識し、市をあげてより効果的な取り組みを進めていくため、今回条例を制定しました
本年度中に、具体的な対策や数値目標を定めた行動指針を策定するほか、取り組みの状況なども公表していく予定です。

条例の基本的な考え方

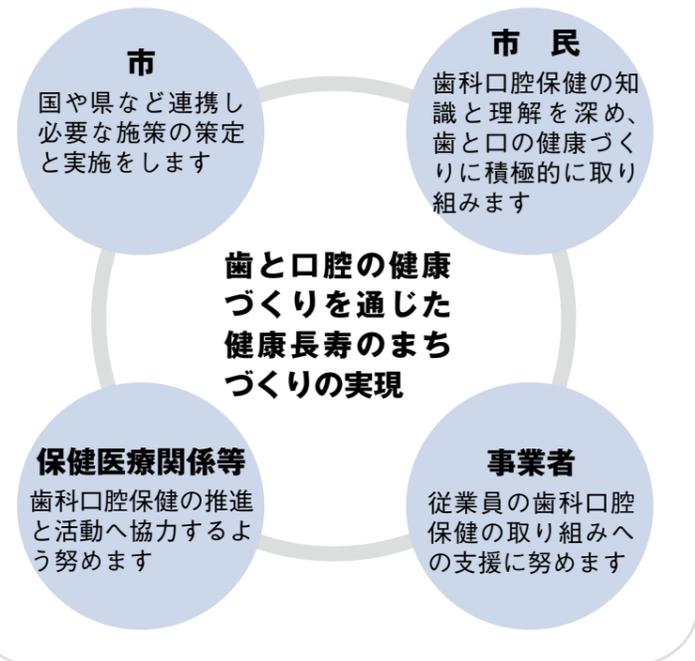
歯と口腔の健康づくりについて基本的な事項を定め、施策を進め、健康長寿の確立を目指します。

市民の皆さんは

歯と口腔の健康を維持するために、日常生活で自ら歯と口腔の健康づくりに取り組みます。

市や保健医療関係者などは

生涯にわたり地域で適切な歯と口腔の保健医療サービスを受けることができるよう、環境整備の推進を図ります。



むし歯予防のためのフッ化物塗布

条例制定の背景
歯や口の健康は、歯や口の健康は、身体的な健康のみならず、食べる喜びや人との会話を楽しむなど精神的、社会的な健康にも大きく関わっています。口腔（注1）の働きの低下は、最終的には私たちの「生活の質」にも大きく影響します。
また、歯科疾患を予防し、口をしっかりとお手入れすることは、高齢者となった時の口腔機能の維持につながります。歯や口の健康は、健康寿命を延ばし、医療費削減などにつながります。生涯に渡って歯や口の健康を保つためには、「歯の喪失防止」と「口腔機能の発達・維持・向上」が重要な鍵となります。

安曇野市の状況
市の現状を見ると、平成25年度の12歳児の一人平均むし歯数は全国の1.1本より少ない0.7本で、市が取り組む、保育園、幼稚園、小中学校（一部実施）でのフッ化物（注2）洗口による効果が一つの要因として考えられます。
その一方で、平成24年度成人歯科検診結果によると、受診者全体の約7割が歯周病にかかっ

ています。その中でも、進行した歯周病にかかった人の割合は、40歳代で約4割、60歳代で約6割と全国よりも高い状況にあります。重症化を防ぐためには若年層からの対策が必要です。
さらに、高齢者では、運動機能低下に次いで、口腔機能が低下している人が多い状況です。前期高齢者（65歳から74歳まで）では口腔機能が低下している人が一番多く、体より口の機能低下が先に現れる傾向があります。
注1 口からのどまでの空洞部分。口の中。
注2 むし歯を予防する効果がある。使用方法として洗口（うがい）や歯に塗布（塗りつける）がある。

特集◎健康は「健口」から
こうくう
歯科口腔保健条例が施行

市では、市民の皆さんの歯や口の健康づくりを推進するため、県内の市町村で初となる「歯科口腔保健条例」を9月30日から施行し、取り組みを始めた。今月号では条例の基本的な考え方や、地域で歯や口の健康づくりに取り組む市民の皆さんを紹介します。

